

安心して住めるまちづくりを

井之川博幸議員の一般質問その2

沼田市議会報告

先週号に続いて井之川議員の一般質問を報告します。井之川議員はまず、人口が予想以上に減少していることは「住みにくいまち」になっているのではないかと指摘し、「住み良いまち」にするために安心して働けるまちや安全にすごせる町にすること、活力あるまちにしていくことが必要ではないかと、具体的な問題の解決を市長に求めました。

危険な道路(市道柳町部分)の改善を

井之川博幸議員は、市道高橋場 善桂寺線の柳町部分(県道材木町 上発知線との分岐から三光院前)は車の交通量が多いが、歩道が設置されておらず歩行者の安全性に問題があることや幼稚園・保育園の出入り口もあり、大雨の時は冠水するなど「大変危険な道路」で死亡事故も起きていることなどを指摘し、改善を求めました。



死亡事故も起きている歩道もなく狭い柳町市道

市長は、「歩道整備の必要性は認識しているが、今後の研究課題」と答えました。また、「道路の冠水被害については、雨水排水の早期整備を図るとともに、側溝しゅんせつ等維持管理に努めていく」と答えました。

*「雨水排水の整備」については、新年度に市道よりも上流の柳町 2307 番地、元田中マート前から環状線に埋設してある雨水配水管にむけて(セーブオンの西側道路に)雨水排水管を整備することになりました。



市長は、「昨年来のあまりにも急激な経済の悪化は、改めて地域における農業をはじめとする地域の基幹産業、いわゆる地場産業をしっかりと守り育てていくことの重要性を認識させられた。地場産業の振興を図るべく首都圏を対象に販路拡大や観光PRを進め、活力ある街づくりに努めていく」と答えました。

活力あるまちへー都市計画の見直しを

井之川議員は、3・3・1環状線など都市計画道路は昭和40年、50年代に計画されて、今多額の公費を投入して工事が行なわれている。経済が上向きの時と人口が減少し、コンパクトな都市で福祉を充実し安心して住めるまちを目指さなければならない時代に、40年前に計画された都市計画道路などが時代に合っているかどうか、見直しをする必要があると訴えました。特に工事が続いている南回り環状線は、4車線は必要なく、2車線に見直すよう求めました。

市長は、「社会情勢が大きく変化する中で、都市計画道路網を適切に見直す必要性が高まっている」「県の指導も受けながら見直しの検討を行いたい」と答えました。

中心市街地土地区画整理事業の見直しを

井之川議員は、時代遅れとなっている「2核ワンモール構想」に基づき進めている「中心市街地土地区画整理事業」は10年経過しても10%程度しか進んでいない、貴重な城下町の名残も壊している。抜本的な見直しが必要と訴えました。



区画整理で取り壊された和風の料亭

市長は、今後も沼田商工会議所、中心市街地活性化の会、本町通り商店街並びに権利者等と連携を図りながら、土地区画整理事業の推進とまちの活性化に向けて努力していく」という姿勢を示しました。

井之川議員は、土地区画整理事業における市の先行買収が商店を追い出し、空地をつくり、商店街を疲弊させたと指摘しました。

沼田の活性化は、農業・地場産業を元気にすること

井之川議員は、沼田らしさを最大限に発揮させ、活性化させるには、農業や林業、木工業など、沼田の地場産業を中心としたまちづくりが必要と訴えました。

2009年4月5日 469

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料